



胆沢、江刺などからなる「奥六郡」について説いた樋口教授

まえさわ 平泉の歴史をもっと知ろう
世界遺産候補地と郷土史を学ぶ講演会

講演会「世界遺産候補地と郷土史を学ぼう」が3月21日、前沢ふれあいセンターで開催されました。世界遺産「平泉」への追加登録を目指し、市民の機運を醸成しようと市世界遺産登録候補地ガイドの会(小野寺修会長)が主催。岩手大学の樋口知志教授が「安倍氏から奥州藤原氏へ—古代接触領域としての奥六郡・平泉—」と題し基調講演したほか、研究発表とパネルディスカッションが行われました。参加した約90人は熱心に耳を傾け、平泉文化への理解を深めていました。

みざさわ 震災の経験を後世に伝える
第3回交流会「3.11を忘れない」

奥州♥絆の会(渡辺明美会長)の交流会「3.11を忘れない」が3月23日、水沢地区センターで行われました。陸前高田市広田町の復興をけん引した地区や漁協の女性会代表者がゲストとして招かれ、震災での体験をあらためて思い返し、後世に伝える大切さを語りました。このほか、元胆江地区消防組合消防監の菅原睦夫さんが「備えあれば憂いなし」の題で講演。身近な危機管理の大切さを語り、この日集まった約40人の参加者は熱心に聞き入っていました。



それぞれの体験を語るゲスト



入園式での
いい笑顔！
(≧▽≦)



姉妹都市 **掛川だより**

市内各地の面白い話題や情報を伝えます！

「掛川市 市民広報レポーター」を委嘱

掛川市では、平成26年4月から、市内各地の面白い話題やトピックス的な市民目線でのさまざまな情報を、市ホームページや広報紙に掲載するため、取材、編集活動を行う「掛川市 市民広報レポーター制度」を新設しました。

レポーターは、男性2人、女性3人の計5人で、任期は1年間。3月26日に、松井市長から、当日出席した4人のレポーターに委嘱書を手渡しました。



松井市長(左)から委嘱を受ける市民広報レポーターの皆さん

みざさわ 鋳物のまちは雨にも負けず
羽田町火防祭



厄年連に先導され、町内を鋳物屋台が練り歩きました

市内春祭りのトップを飾る羽田町火防祭(同実行委員会主催)が3月30日、羽田町本町通りを会場に開催されました。

これは、昭和2年に発生した大火を契機に、地域の防火を願う行事として、毎年この時期に行われている祭りです。市消防団による纏振りや、豪華絢爛に飾り付けられた名物の鋳物屋台「羽田町剣ばやし」が運行。色鮮やかな衣装に身を包んだ子どもたちが搭乗し、お囃子に合わせて太鼓をたたくと、沿道からは大きな拍手が送られました。

この日は、徳島、仙台两市から協賛出演した阿波踊り団体が、華麗な演舞を披露。朝から雨に見舞われるあいにくの天候でしたが、多くの来場者が祭りを満喫していました。

いさわ 劇団との共演で感動の舞台
舞台創作体験ミュージカル公演

胆沢文化創造センターで3月30日、ミュージカル公演「サウンドオブミュージック〜トラップ一家物語〜」の上演が行われました。この公演は、滝沢市の劇団ゆう(菊田第一理事長)が主体でしたが、いさわジュニアミュージカルスクールの子どもたちも多数出演。見事な歌と華麗な踊りで観客を魅了しました。

地元を離れるため、今回は最後の舞台となる小野寺美紀さん(18)は「劇団との共演は刺激になります。楽しく演技できました」と笑顔で語りました。



厳しく教育を受ける子どもたちをピクニックへと連れ出した場面



日ごろ磨いた歌声に利用者は大喜び

みざさわ 爽やかな歌声にうっとり
水沢中生徒が福祉施設で合唱披露

市立水沢中学校合唱部(佐藤凧子部長)が3月24日、水沢区姉妹町の社会福祉法人ひたかみ福祉会「ワークみざさわ」を慰問し、利用者約40人を前に合唱を披露しました。この日訪問した部員12人は「われは海の子」や中島みゆきさんの「時代」「糸」などを一曲ごとにナレーションを交えながら発表。また、手話を加えて歌った復興支援ソング「花は咲く」では、利用者も一緒に口ずさんだり、手話での振り付けをしたりしながら、楽しいひとときを楽しみました。